

2 キャリア教育と職業教育の一層の充実

(1) キャリア教育の一層の充実

現状と課題

- 産業・経済をはじめとした社会の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化しています。こうした中で、子どもたちが、将来直面する様々な問題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくために、キャリア教育を一層充実させていく必要があります。
- まもなく社会に出る高等学校段階において、自己の将来や果たすべき役割について考えさせたり、社会や職業に対する認識を深め、学ぶことの意義を理解させたりすることは大切であり、インターンシップ等の体験的活動への参加や社会人講師による職業講話などは、そのための有効な手段の一つとなります。
平成25年度の県立全日制高校卒業生のうち、在学中に一度でもインターンシップ等に参加した生徒の割合は21.7%（普通科：13.9%、職業学科⁹：46.5%）であり、とりわけ普通科において実施率を向上させることが課題となっています。
- 社会の変化が急速に進み、子どもたちが自分の将来を思い描くことが容易でなくなっています。こうした中、総合学科では、1年次に履修する科目「産業社会と人間¹⁰」において、生徒が働く意義を考え、将来の生き方や自分の適性を見つめる活動を行い、その取組が学習意欲の向上につながっています。普通科においても、教育課程の中に同様の活動を位置付け、各校のキャリア教育の中核に据えていく必要があります。

⁹ 職業学科：専門教育を主とする学科（専門学科）のうち、職業教育を主とする学科で、本県においては、農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、福祉科の7学科を設置している。

¹⁰ 産業社会と人間：平成5年に、総合学科の創設に伴い原則履修とされた科目。平成11年の学習指導要領改訂で、どの学科でも学校設定教科に関する科目として設けることができることとなった。産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究を通して次のような事項について指導することとなっている。

- (1) 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成
- (2) わが国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察
- (3) 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

〈本県の取組〉

○ 県立全日制高校のインターンシップ等の実施状況の推移

年度	H21	H22	H23	H24	H25
実施校〔校〕	85	143	146	146	146
県立全日制高校の卒業生数〔人〕	35,864	36,401	37,003	38,645	37,451
在学中に1度でも参加した生徒数〔人〕	4,630	5,417	6,197	7,792	8,136
在学中に1度でも参加した生徒数の割合〔%〕	12.9	14.9	16.7	20.2	21.7

○ 県立全日制高校の平成25年度のインターンシップ等の活動日数別の参加生徒数とその割合

日数	1日	2～3日	4～5日	6～10日	11～29日	合計
人数〔人〕	3,775	5,207	1,004	145	768	10,899
割合〔%〕	34.6	47.8	9.2	1.3	7.0	

- 小学校から高等学校までの発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育を推進するために「キャリア教育ノート」を作成し、活用を進めています。
- 小・中学校及び高等学校のキャリア教育に協力していただける企業・事業所を登録する「あいち夢はぐくみサポーター制度」を設け、インターンシップの受入れや社会人講師の派遣等に活用しています。
(平成27年2月末時点の登録サポーター数 1,241件)



キャリア教育：一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促す教育。
(中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(平成23年1月)による)

職業教育：一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育。
(上記答申による)

改革の方向

- 生徒が将来の職業生活について自分自身のビジョンをもつために、体系的・系統的に学習できる教育課程を編成するとともに、義務教育段階での取組も踏まえ、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進します。
- 生徒が実社会を自分自身の目で見、他者の生き方に触れる機会を増やすとともに、様々な人々と関わる経験を積むことにより、コミュニケーション能力を育み、道徳性・社会性の向上を図ることができるよう、インターンシップやボランティア活動などの体験的な活動を推進します。

① キャリア教育に関する科目の開設

全ての普通科において、総合的な学習の時間を活用するなどにより、将来自分が社会の中でどのような役割を果たし、どのように生きていくかを考えさせるキャリア教育に関する科目を開設します。この学習活動の中で、社会人講師を積極的に活用するとともに、社会人としての基礎力となるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、キャリアプランニング能力¹¹などを育成します。

② インターンシップ等の拡充

あいち夢はぐくみサポーター制度を積極的に活用し、インターンシップ等の取組を拡大するとともに、普通科を中心に比較的取り組みやすい形態であるジョブシャドウイング¹²を推進します。また職業学科では、産業現場での長期実習を取り入れるなど、インターンシップの更なる充実に努めます。

③ インターンシップやボランティア活動の単位認定

長期休業中等に取り組んだインターンシップやボランティア活動の成果を、「学校外の学修」として単位認定することを促進し、生徒がより積極的かつ意欲的に、こうした活動に取り組めるような環境づくりに努めます。

④ キャリア教育コーディネーターの配置

インターンシップ、社会人講師の招へい、ボランティア活動などの学校の活動を円滑に実施するため、キャリア教育コーディネーターの配置を検討します。

11 キャリアプランニング能力：「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

12 ジョブシャドウイング：生徒が産業現場で従業員に「影」のように密着し、その仕事内容や職場の様子を観察する活動。